和装振興プロジェクト ～伝えよう！和服の魅力～

阿部　栄子　教授
(家政学部　被服学科)

【プロジェクトの目的】

日本の和服には、我が国ならではの「文化」が凝縮されています。また、和服（きもの）が完成するまでの各過程の全てに、日本人の卓越した繊細な職人の心と技が生かされており、世界のどの国の民族衣装にも劣ることのない誇るべき伝統的染織技術によってつくり出されています。本和装振興プロジェクトの開催を通して、世代を超えた人々が広く和服（きもの）に興味をもち、日本文化の理解を深め、着実に後世へと「きもの文化」を伝承していくことを目的として実施してきました。

【プロジェクトの概要と実施効果】

これまでに、本学家政学部被服学科における卒業研究（和服製作）はいくつもの団体・地域から注目され、数年前から日本橋（東京）における“きものサローネ in 日本橋”において、学生きもの優秀作品として複数点が毎回選定され、毎年、公開展示をして参りました（例えば、日本橋（東京・COREDO 室町 2・三井ホール）。今年度も、和服を学ぶ全国の学生作品の中から、本学の学生作品が「学生優秀作品」として選定されました。これらの作品展示実施に向けた実施計画と作品の公開展示の方法、さらにこれらのきものの着装コーディネートを本プロジェクトの学生が担当するものです。展示期間中の展示解説も本プロジェクトメンバーが担当しました（一般展示公開：令和 5 年 11 月 4・5 日、会場：東京国際フォーラム E1 ホール[東京都千代田区丸の内 3-5-1]）。

令和 5 年度は、和装きもの 2 点（婚礼衣装：比翼仕立ての引振り袖、比翼仕立ての黒留袖）が選定され、今回で連続 5 回目を迎えました。これまでと同様、これらの作品展示の実施に向けた計画と作品展示、着装コーディネートの担当ですが、学生にとっては初めての経験ばかりで、勉強の積み重ねと戸惑い続きの日々ではありましたがとても有意義な活動となりました。このようなプロジェクトの開催を重ねるごとに、作品の展示方法の向上だけでなく、確実に学生の学びへの士気が深まっていることを実感しました。

本開催は、プロジェクトに参加した学生全員がこれらの実施を通して、日本文化への理解が更に深まったことであり、とても意義深いことです。また、この活動を通してプロジェクトの目的でもある「きもの（和服）」を多くの若い人たちが気軽に楽しめる衣服として、身近に捉えられるようになってきていること、製作・着装を含めた実技の向上、人々の通過儀礼をも解説指導できる本格的なプロジェクトチームとして成長しています。

本学のこの様な学びは、大切にしつつ、今後も教育・研究に望みたいと思います。



展示の様子（於 東京国際フォーラム）





本学学生の作品

（左：引き振り袖　　右：黒留め袖）



和服姿で解説をするプロジェクトメンバー



展示準備中の様子



実施ポスター